

# 九州大学の国際戦略について

九州大学副学長

吾郷 眞一

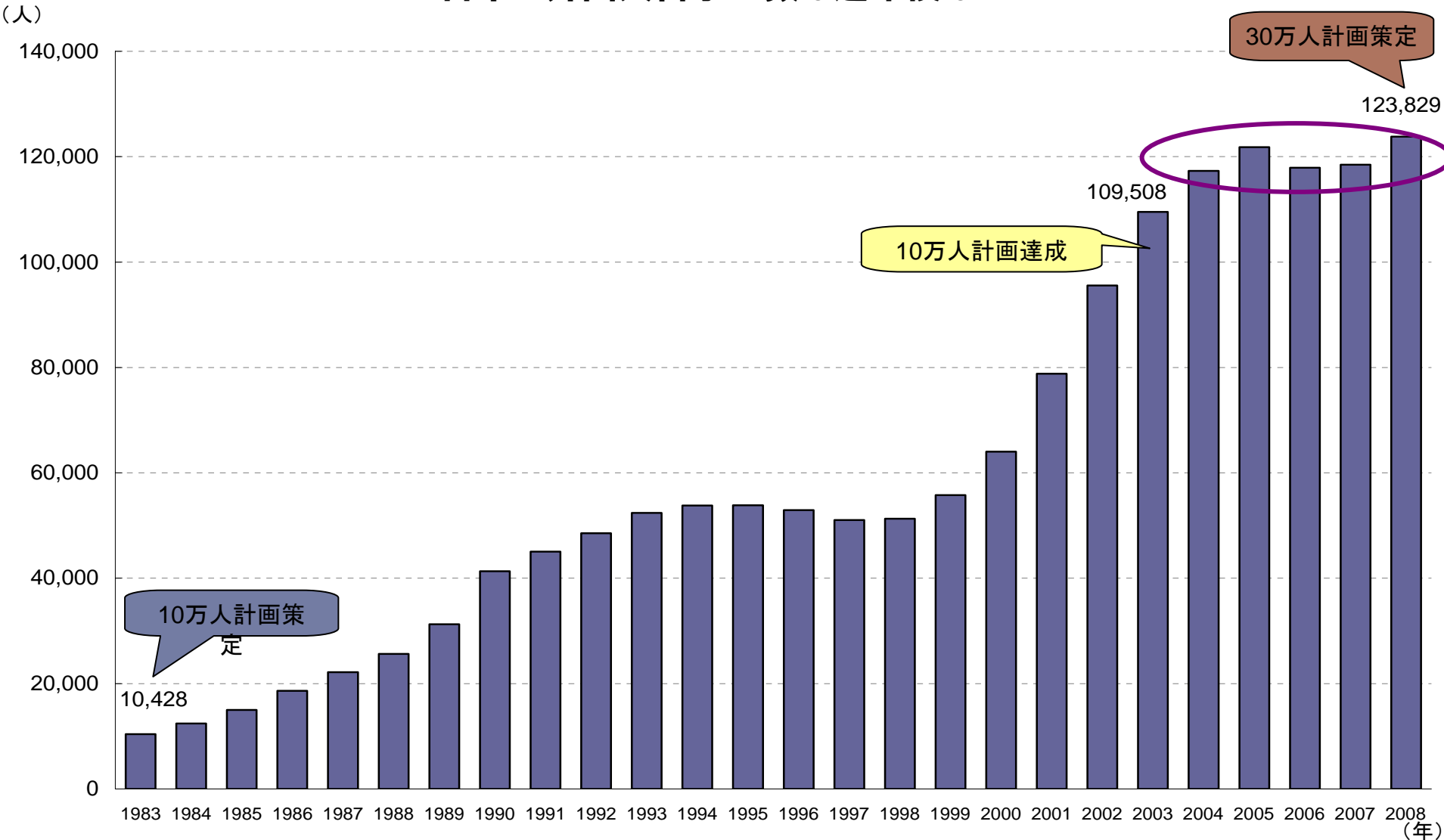
2010年1月29日



九州大学

1. 九州大学の国際化の現状
2. 九州大学の特色ある研究
3. 九州大学の国際化の次なる展開の戦略

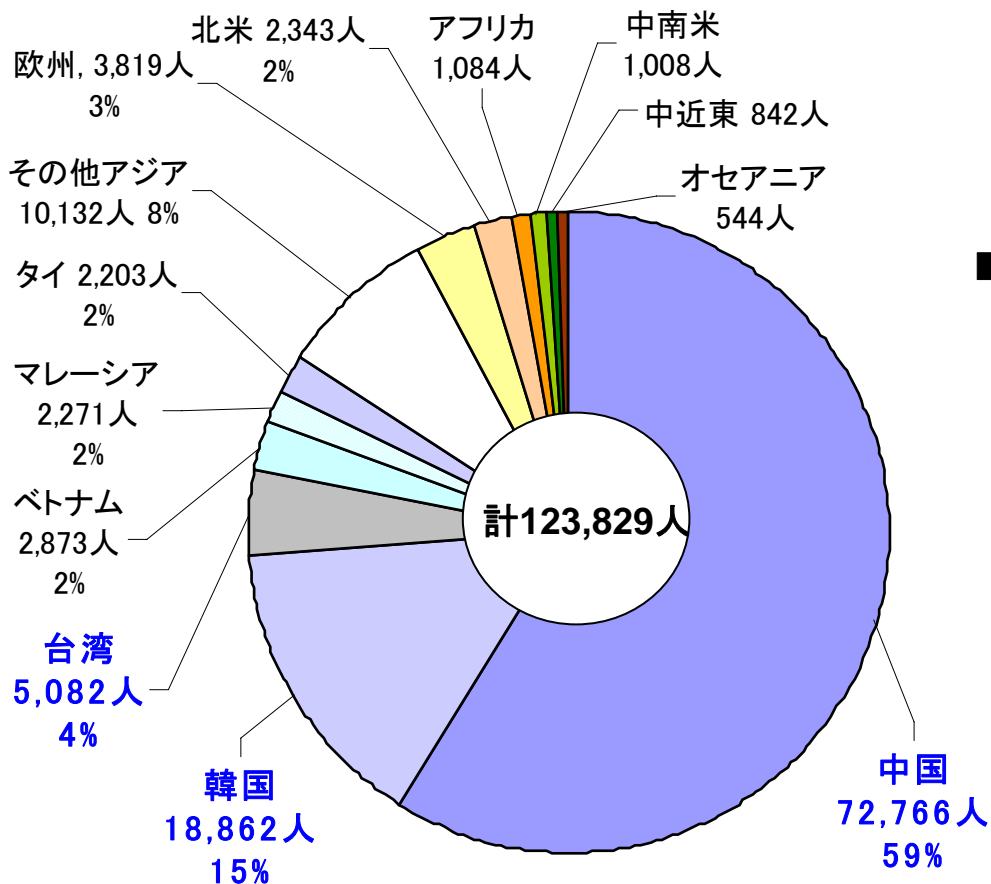
## 日本の外国人留学生数は近年横ばい



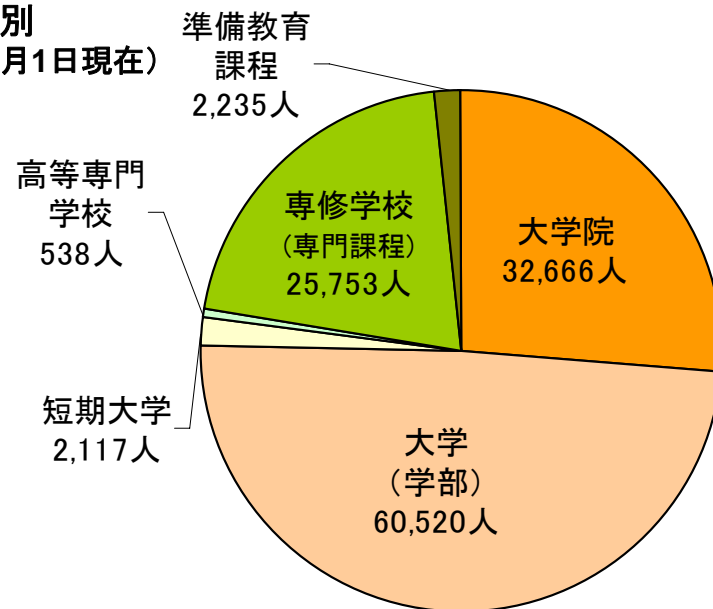
(出典) 日本学生支援機構「外国人留学生在籍状況調査」

## 我が国で学ぶ外国人留学生数の約9割はアジア出身

■出身国(地域)別 (2008年5月1日現在)



■在学段階別 (2008年5月1日現在)

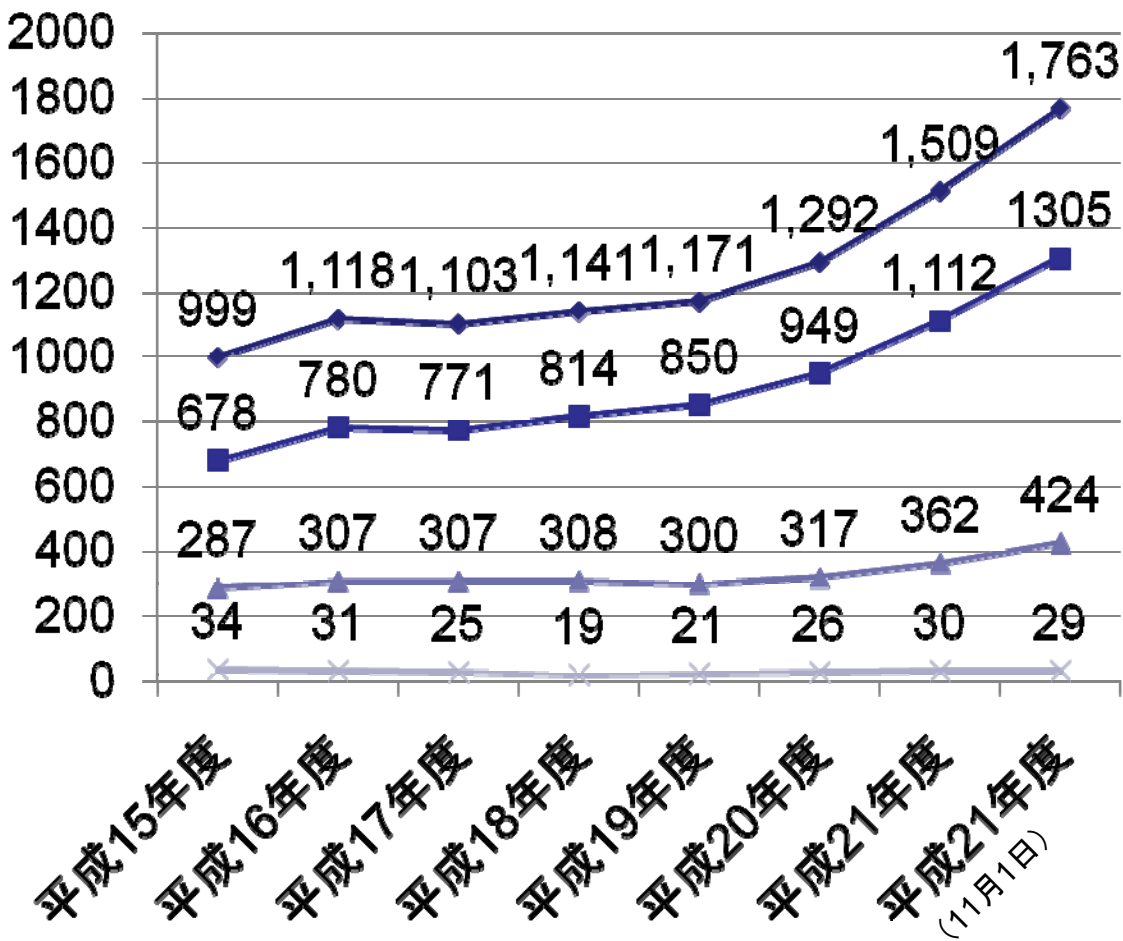


■受入れ数の多い大学 (2008年5月1日現在)

立命館アジア太平洋大学	2,644人
早稲田大学	2,608人
東京大学	2,388人
大阪大学	1,439人
国士舘大学	1,356人
筑波大学	1,337人
京都大学	1,335人
大阪産業大学	1,297人
<b>九州大学</b>	<b>1,292人</b>
東北大学	1,214人
名古屋大学	1,214人

# 九州大学で学ぶ留学生数の推移

(単位:人)



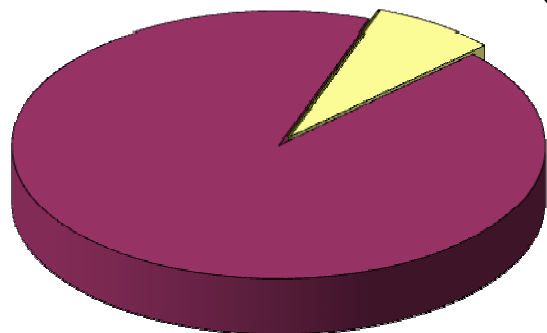
- ◆ 留学生総数
- 私費留学生
- ▲ 国費留学生
- ✕ 外国政府派遣留学生



※各年5月1日現在

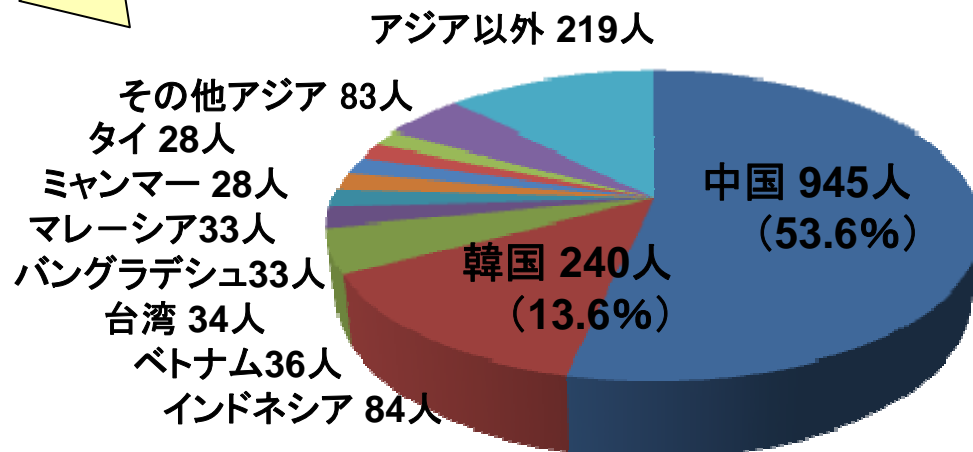
# 九州大学で学ぶ留学生の数(2009年11月1日現在)

留学生総数 1,763人(11%)



全学生総数 19,376人

80の国・地域から学生が集結



留学生総数 1,763人



## 海外の大学との学生交流プログラム

### (1) 九州大学サマープログラム ATW (Asia in Today's World)

- アジアに重点を置きながら欧米をも対象とする外国人短期留学プログラムとして位置づけ、学生流動化への戦略的な展開を図る
- 留学期間: 6週間(6月下旬から8月上旬)
- 定員: 60名程度



アジアにおける九州大学のステイタスの確立

### (2) 外国人短期留学プログラム JTW (Japan in Today's World)

- 世界を対象とする外国人短期留学プログラムとして位置づけ、学生流動化への戦略的な展開を図り、将来におけるネットワーク構築に繋げる
- 留学期間: 最長10ヶ月(10月から翌年7月)
- 定員: 40名程度



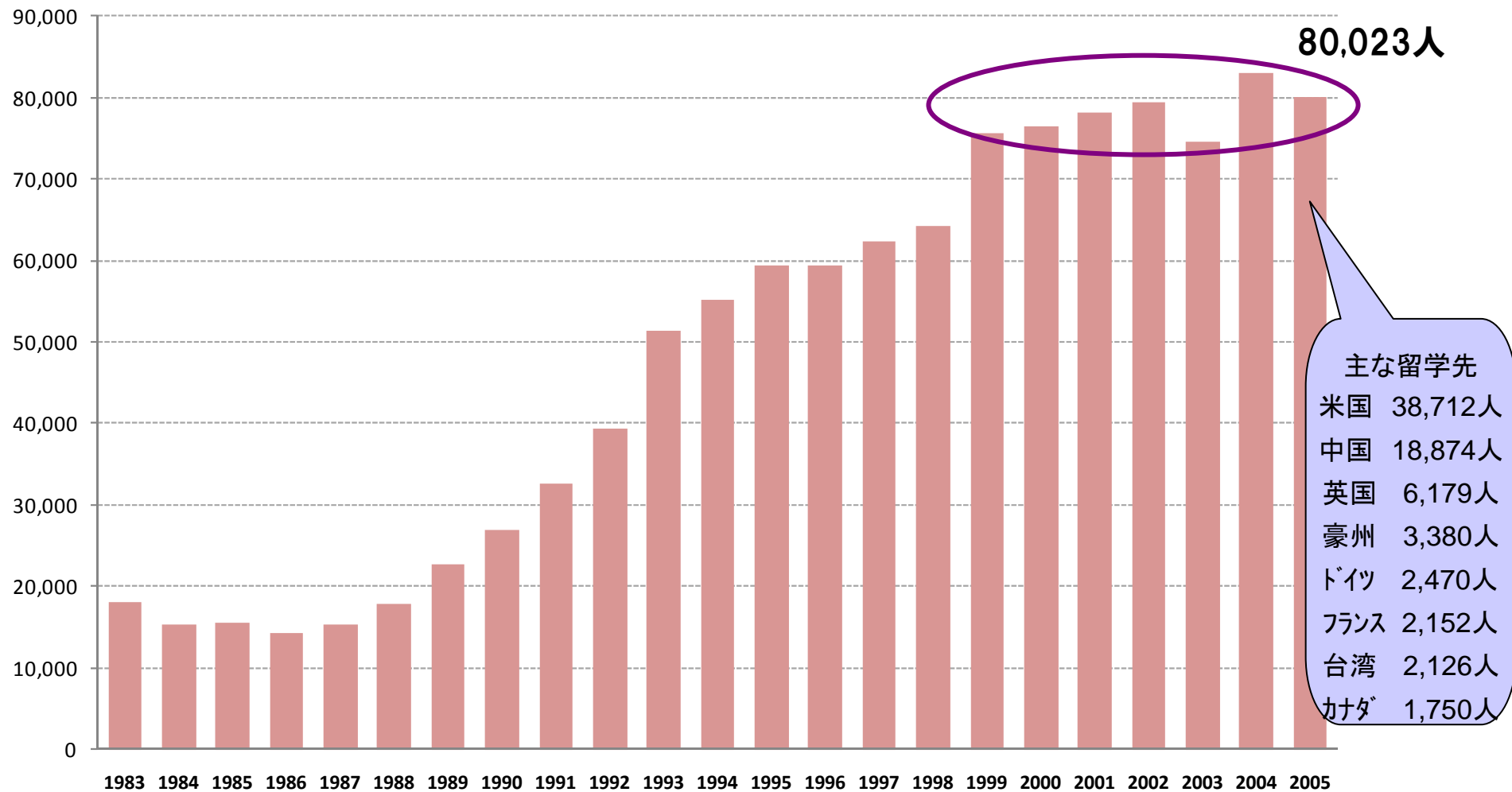
世界の有力校との実質的な交流

### (3)フレンドシップ奨学金制度

- 趣旨等：
  - ①世界各地・各界における重要かつ有力な人材として将来を嘱望される学生を本学に招き、本学の世界戦略の中で、将来にわたって、本学の良き理解者たる人材育成を図る。
  - ②本学の研究・教育大学管理運営に寄与させることを目的とし、帰国後の本学との繋がりを緊密に保ち、コンタクト・パーソンとしての活動を期待する。
- 留学期間：3ヶ月から12ヶ月
- 募集人数：15名程度／年



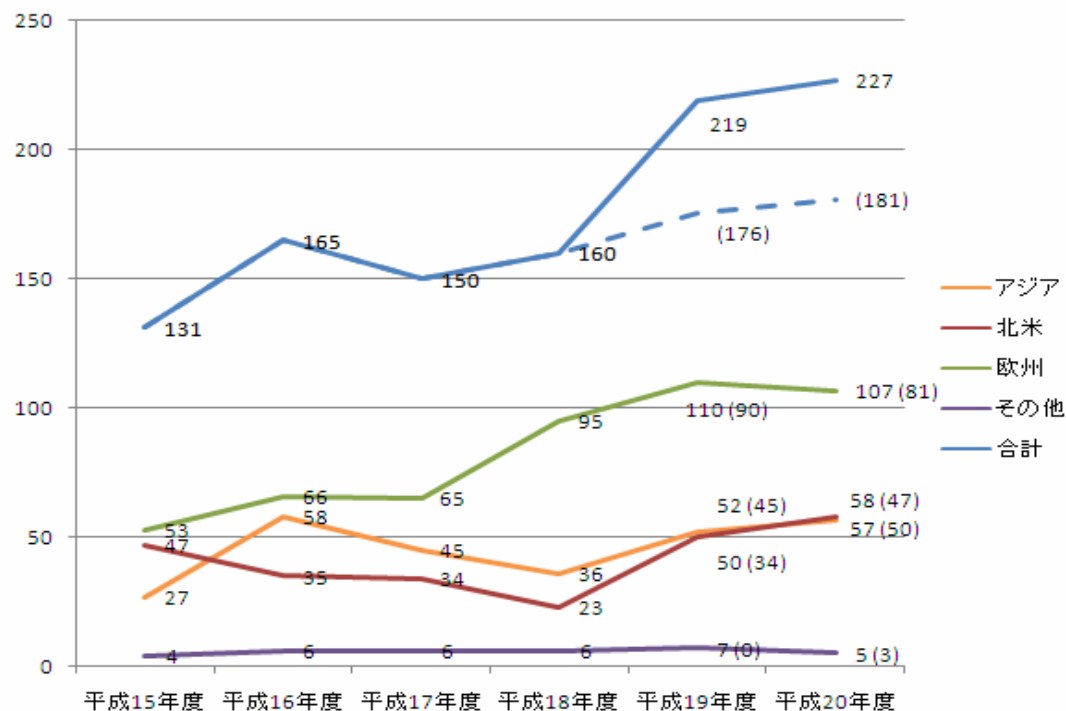
## 海外へ留学する日本人学生数も近年横ばい



(出典) 文部科学省「我が国の留学生制度の概要(平成20年度)」

(資料) IIE「OPEN DOORS」、中国教育部及びOECD「Education at a Glance」、台湾教育部各2005年版をもとに文部科学省作成 8

# 世界へ飛び出す九州大学生



※平成19年度以降のデータは、過年度に留学を開始した者を含む。  
 ( )内の数及びグラフ中の破線は、過年度に留学を開始した者を除いた内数。

## ◆海外留学、学内留学のための各種プログラム多数

- 学内留学、短期語学留学(英・中・韓)
- 海外の有名大学への留学: ミシガン大学(米)、ワシントン大学、(米)、ブリストル大学(英)、北京大學(中)、ソウル大学(韓)など 世界の著名大学192校
- 単位互換制度有り
- 奨学金制度が充実:派遣学生の90%以上は返還不要の奨学金や渡航費補助を受けている。

## 九州大学交換留学プログラム

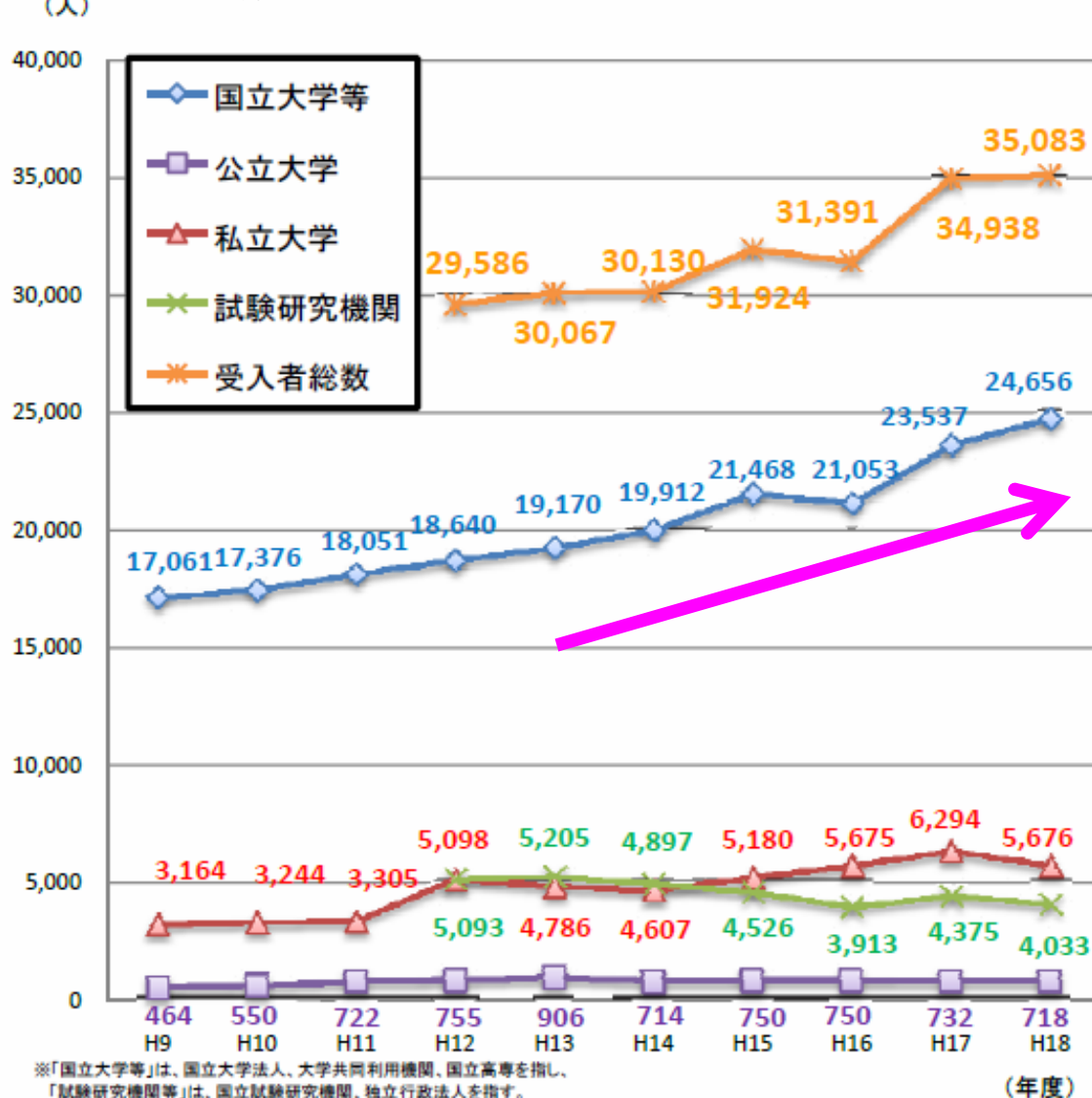
### The 21st Century Challenges in Studying Abroad Program (CSP)

- 1年以内
- 派遣実績(大学間 64名。平成21年度)
- 留学先での授業料不要
- 留学先での在学期間を九大の在学期間に換算することが可能
- 留学先での単位を九大での単位に置き換えることが可能
- 全学協力事業基金による奨学金支給(20名)

等

# 我が国の大学等における外国人研究者(教員、研究員等)の数は年々増加

## ■機関別受入数



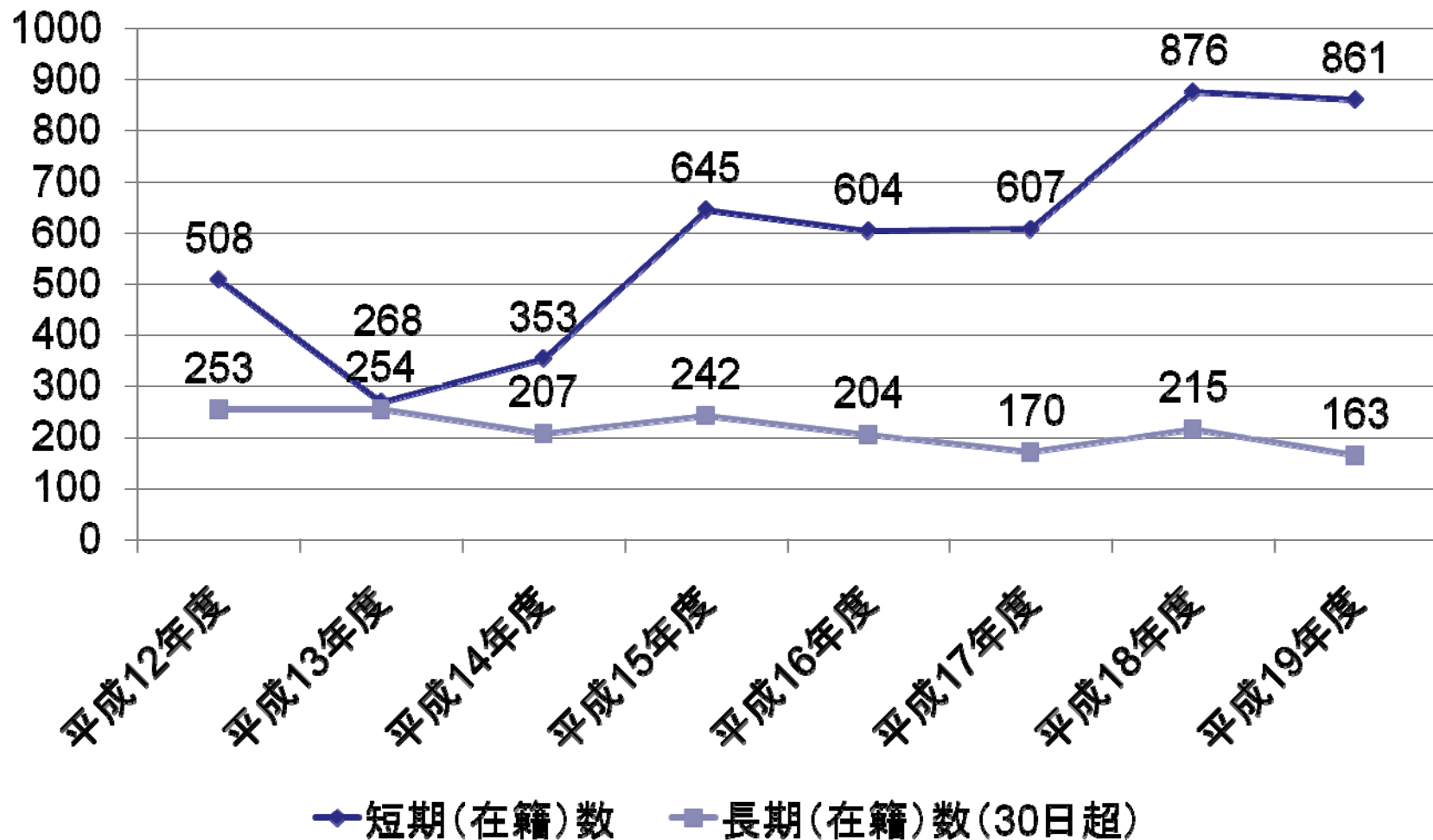
## ■受入数上位機関 (平成18年度)

順位	機関名	受入数
1	京都大学	3,945人
2	東京大学	2,244人
3	高エネルギー加速器研究機構	1,534人
4	大阪大学	1,111人
5	九州大学	1,091人
6	東北大学	1,077人
7	北海道大学	988人
8	自然科学研究機構	979人
9	筑波大学	977人
10	産業技術総合研究所	923人
11	名古屋大学	826人
12	東京工業大学	706人

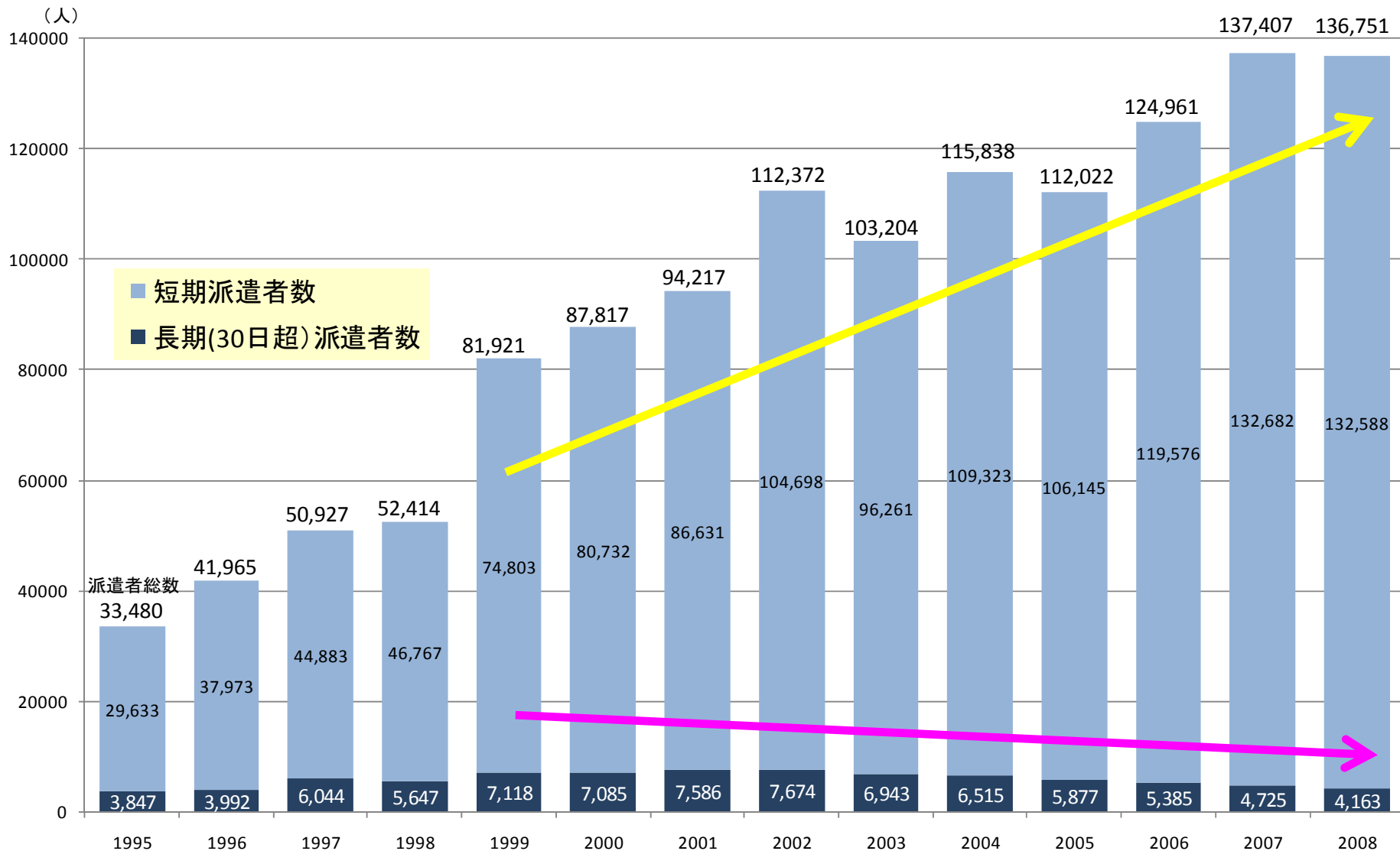
(出典)教育再生懇談会「これまでの審議のまとめ  
—第四次報告—(平成21年5月28日)」  
(資料)文部科学省「国際研究交流の概況(平成18年度)」

# 九州大学における外国人研究者受入数の推移

(単位:人)



## 日本から海外へ派遣された研究者は増加傾向にあるが、長期派遣者はごく一部にとどまっている

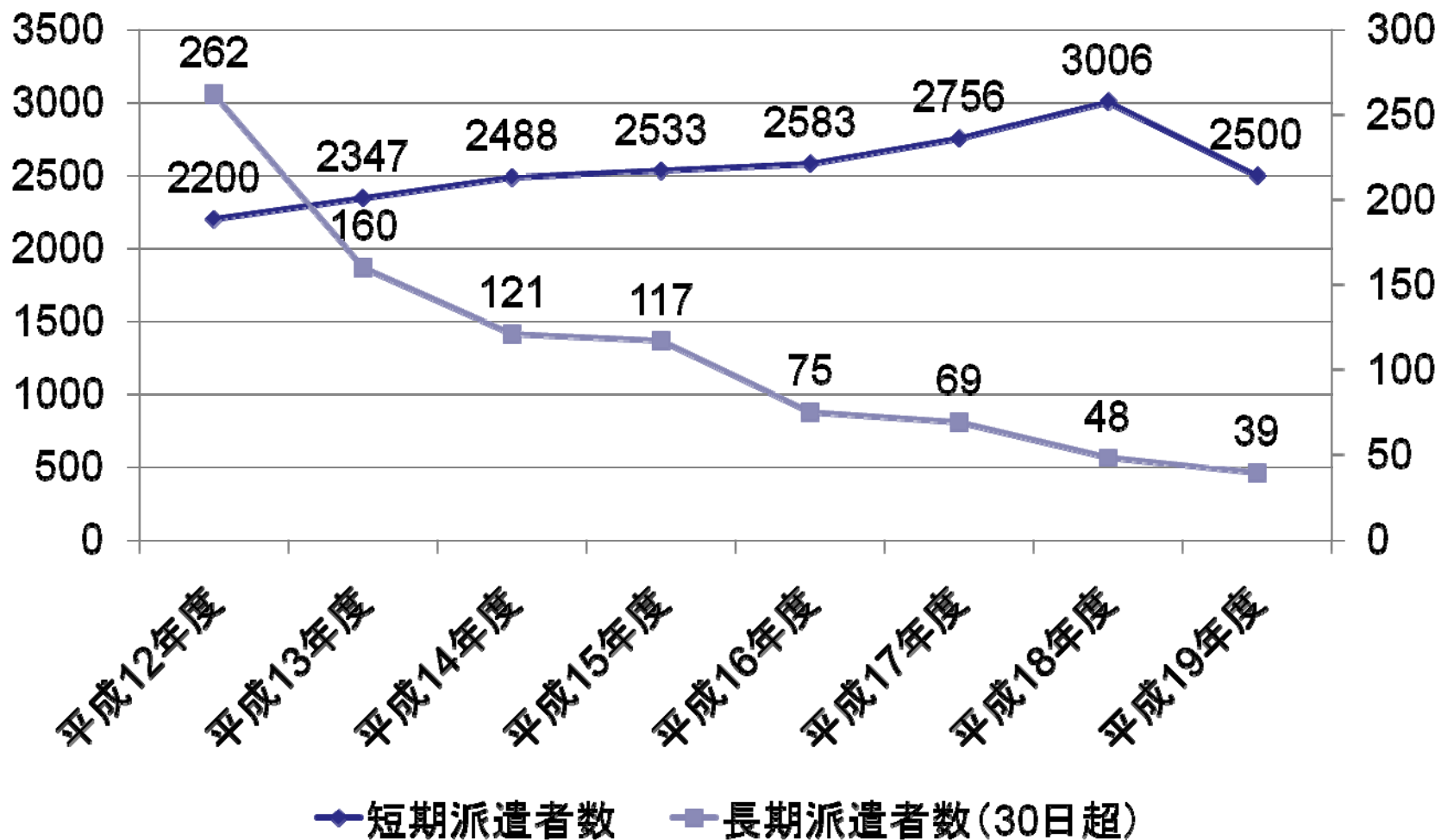


(資料)「国際研究交流の概況(平成18年度)」(文部科学省 平成21年3月31日)

# 九州大学からの研究者派遣数の推移

(短期派遣:単位:人)

(長期派遣:単位:人)





## 世界に広がる九州大学 - 国際交流協定の締結状況



大学間 【学術：(27ヶ国・地域) 110機関】 【学生：(25ヶ国・地域) 108機関】

部局間 【学術：(37ヶ国・地域) 167機関】 【学生：(24ヶ国・地域) 77機関】

平成21年5月1日現在



# 世界に広がる九州大学 — 海外オフィス



## 【海外オフィスの主な活動内容】

1. 九州大学に関する情報を各国において提供する。
2. 各国の学術情報等を九州大学に提供する。
3. 九州大学の研究・教育活動に関する助言を行う。
4. 各国の中心的研究機関や企業・自治体等と、九州大学の共同研究等の可能性・意義等について助言を行う。
5. 海外の優秀な学生を獲得するための説明会等の支援を行う。
6. その他、九州大学の国際戦略に関して助言・提案する。

# 九州大学北京事務所

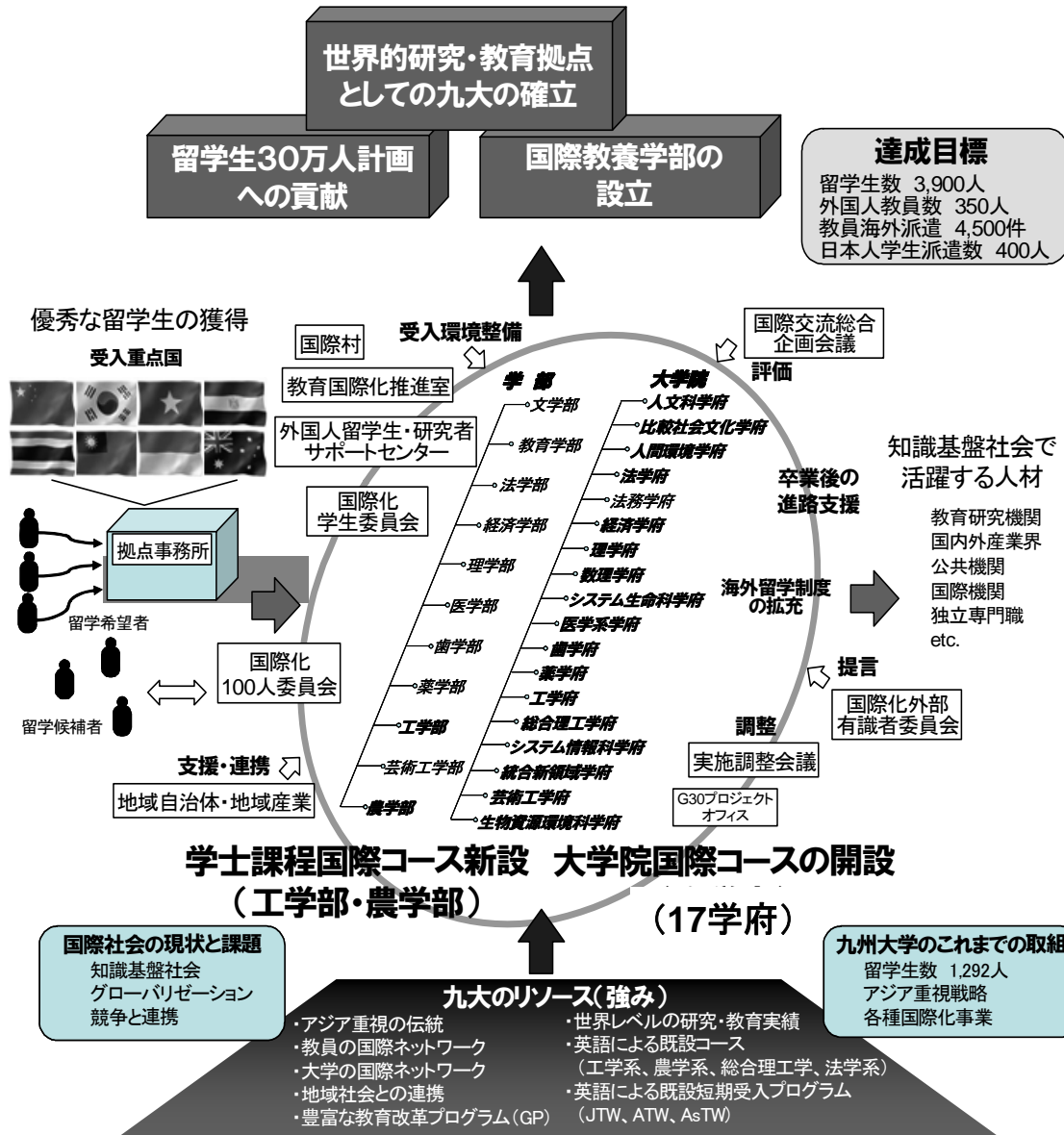
所長： 宋 敏 (SONG MIN ソン ミン)  
氏 中国農業科学院農業資源与農業区画研究  
所 研究員



北京事務所：中国における学術研究の中心である北京・中関村に独自に設置。

- ・九州大学の中国での共同研究を促進するための支援
- ・留学希望者に対するコンサルティング業務など
- ・帰国留学生からの意見や情報を一元的に集約するデータベース化の支援業務

## 九州大学の国際化拠点構想(グローバル30)



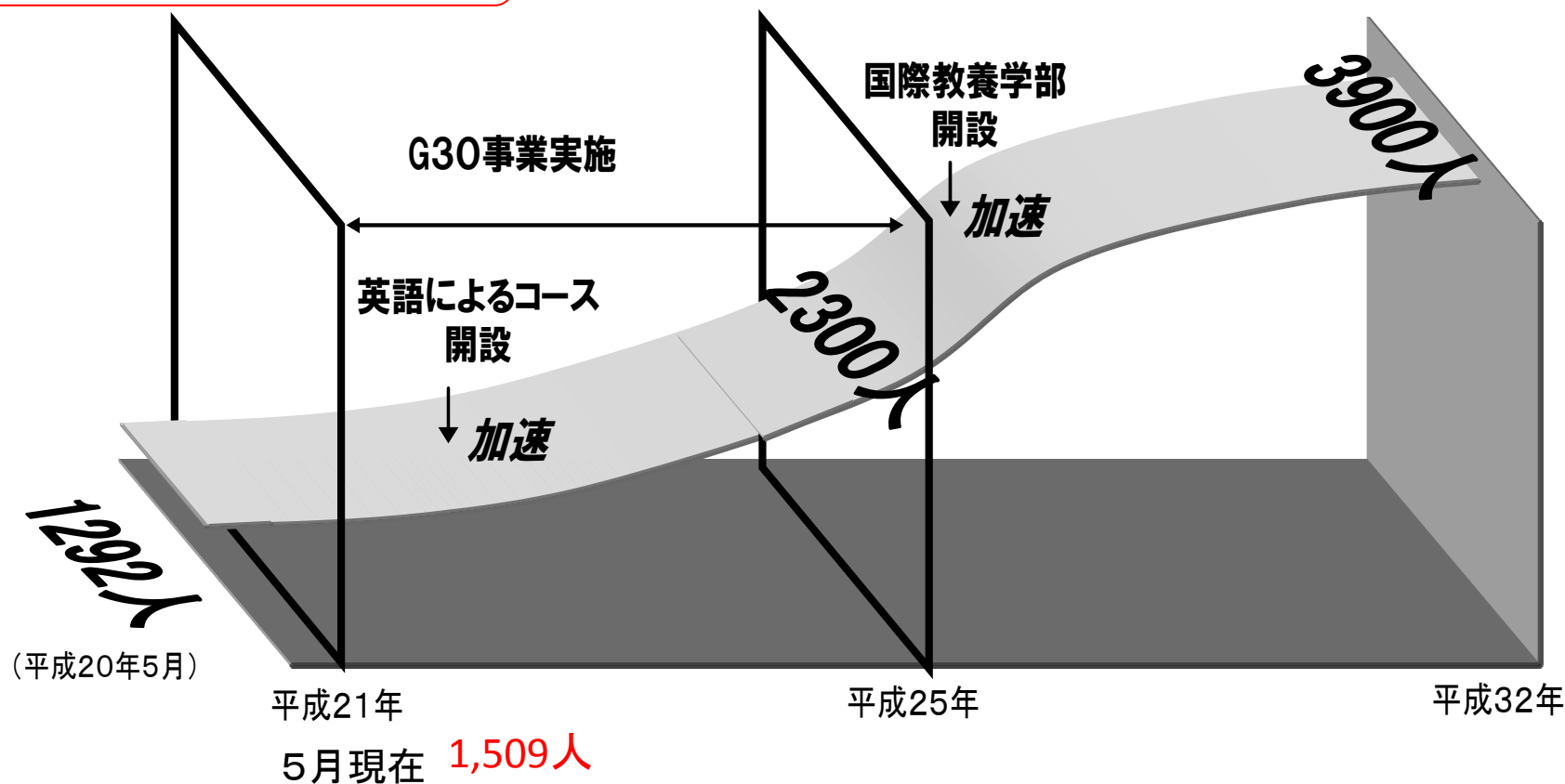
**英語による授業のみで学位が取得できるコースの計画**

**学部:**  
 工学部・農学部の2学部

**大学院:**  
 全学府(17学府)で計45の英語コースを開講

## 本構想の達成目標

### 留学生拡大のシミュレーション



#### 主な方策

- ・学部・大学院での英語コースの新設
- ・短期留学プログラムの拡充 など

# 大型研究プロジェクトへの取組み

## 先端融合医療 レドックスナビ 研究拠点



拠点長  
内海 英雄 教授  
(薬学研究院)

## ERATO 高原ソフト界面 プロジェクト



研究総括  
高原 淳 教授  
(先導物質化学研究所)

## 革新的バイオ医薬 医工学の医療技術 開発拠点



研究代表者  
中西 洋一教授  
(医学研究院)

## 「スーパー有機ELデバイスと その革新的材料への挑戦」 (「最先端研究開発支援プログラム」採択拠点)

- ・世界最高性能の有機EL デバイスを開発
- ・大型照明、ディスプレイ等へ応用
- ・将来的には、環境に調和した省エネルギー社会の実現を目指す



拠点長  
安達 千波矢 教授  
未来化学創造研究センター

## 「先端融合医療研究開発センター」 (経産省 産業技術研究開発施設整備費採択)

「がん」を対象とした疾患の診断と治療の融合を目指す

- ・高精度インテリジェント治療機器
- ・高精度インテリジェント治療機器を用いた治療法
- ・診断・治療のためのスマートドラッグデリバリーシステム
- ・がん末期患者に対する革新的緩和ケア療法



研究代表者  
橋爪 誠 教授  
(医学研究院)



# 文部科学省「グローバルCOEプログラム」に5拠点採択

## H19年度

- ・ 個体恒常性を担う細胞運命の決定とその破綻（生命科学）
- ・ 未来分子システム科学（化学、材料科学）



拠点リーダー  
藤木 幸夫 教授  
(理学研究院)



拠点リーダー  
君塚 信夫 教授  
(工学研究院)

## H20年度

- ・ マス・フォア・インダストリー教育研究拠点（数学、物理学、地球科学）
- ・ 新炭素資源学—石炭エコイノベーション（学際、複合、新領域）



拠点リーダー  
若山 正人 教授  
(数理学研究院)



拠点リーダー  
永島 英夫 教授  
(先導物質化学研究所)

## H21年度

- ・ 自然共生社会を拓くアジア保全生態学（学際、複合、新領域）



拠点リーダー  
矢原 徹一 教授  
(理学研究院)

## エラスムス・ムンドゥス マスターコース

### 東アジア・欧州比較研究マスターコース



#### Year 1

##### コア科目

レウヴェン・カトリックで教育

##### 選択科目モジュール

(6モジュール)  
 九大モジュール=Law in  
 Today's World

##### 合同ワークショップ

アジア開催  
 論文中間発表会

#### Year 2

##### コア科目

ハイデルベルグで教育

##### 選択科目モジュール

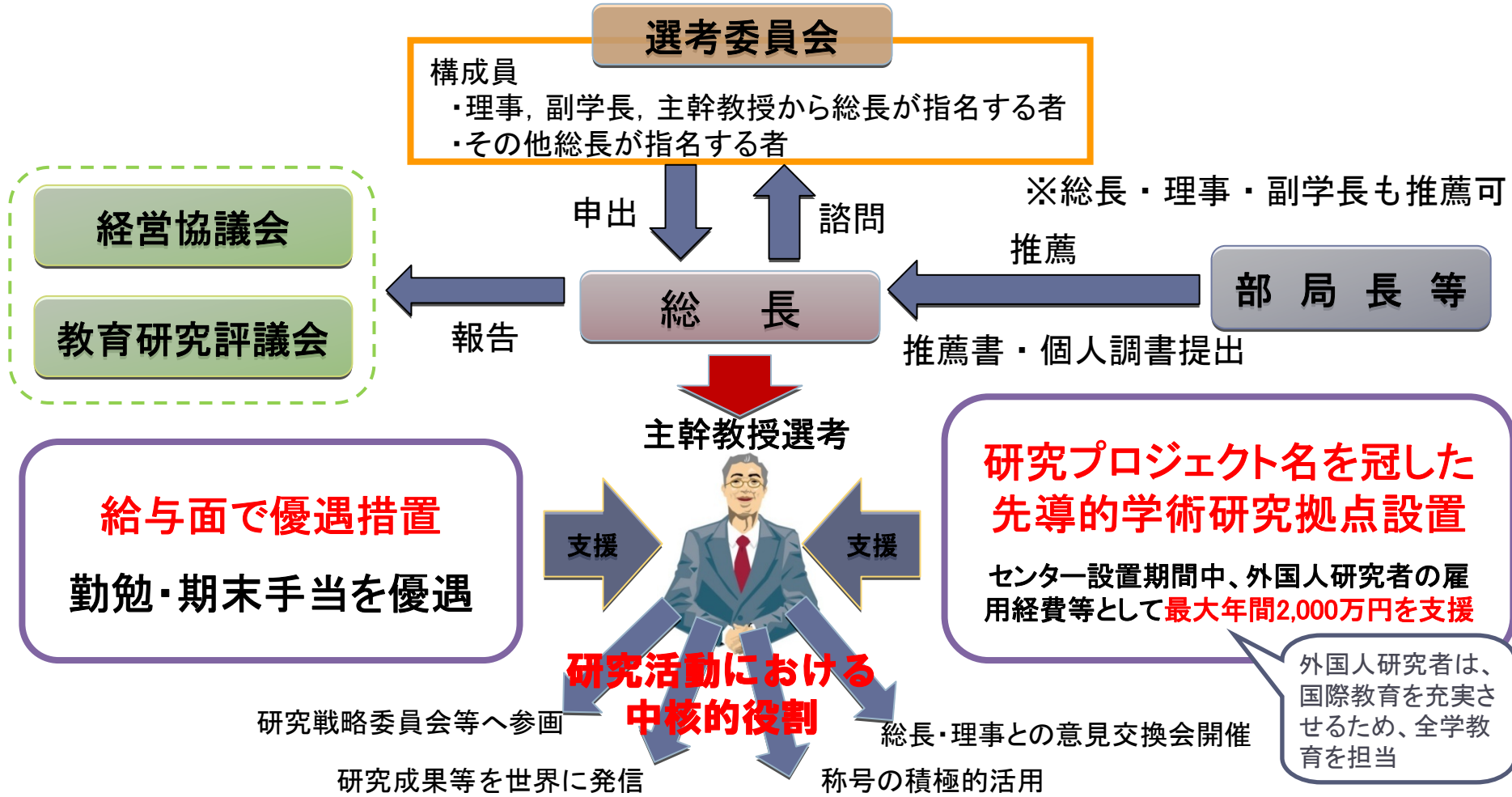
(6モジュール)  
 九大モジュール=Law in  
 Today's World

欧州開催  
 論文発表会

##### 修士論文

## 主幹教授制度を通じた外国人研究者の採用促進

本学の教授のうち、その専門分野において極めて高い業績を有し、かつ、本学の研究戦略の先導的な役割を担う者に**主幹教授**の称号を付与。



九州大学＝世界的研究・教育拠点化



# 国際化の次なる展開

